



法の光 (法光山 妙勝寺 通信)

No.264

2021年(令和3年) 12月 1日発行

文責 大岩 清人

—朝日の本堂半鐘—

740年前

日蓮聖人は740年前の1282年10月13日池上の地でお亡くなりになりました。日蓮聖人の生涯は世相乱れる末法の世に民衆の救いとなる教えを求め、比叡山よしかわの横川・定光院に起居され、京の都で諸宗を学び、南は高野山に詣でて教えを請われたのです。

この頃の諸宗は天皇・鎌倉幕府に取り入り、庶民のための佛教ではないことを残念に思われたのです。関東への帰路、富士山を仰ぎ見る富士川沿いの高台にある岩本・実相寺の経蔵にこもられ、一切経(仏教経典全て)を読破し、その中の「法華経」の教えに光を見いだされました。その根拠となったのがお会式法要で読む「如来神力品第21」なのです。そして、この寺で『立正安国論』



(岩本・実相寺)

を表されたのです。鎌倉の地で民衆を相手に辻説法をし、幕府に『立正安国論』を上程されました。ここに法難の始まりです。松葉ヶ谷の法難・伊豆流罪・小松原の法難・龍の口の法難そして佐渡流罪です。

1274年2月、幕府は日蓮聖人を赦免しました。鎌倉に戻られた聖人はその後も『立正安国論』を幕府に上程し諫言かんげんされました。

『立正安国論』の中で他国侵逼難(他国からの侵略)が生ずると予言された事がまもなく迫っていたのです。1274年10月の蒙古襲来(文永の役)です。



(臨終の地:本行坊)

日蓮聖人は3度諫めても耳を貸さない幕府に見切りをつけ身延山に入山されました。山深く谷深い身延は厳しい自然環境です。晩年、体調が優れず、徐々に弱っていく身体に自らも死を自覚され、周りの勧めもあつて温泉治療に向かわれる途中、武蔵国・池上で入滅されました。

権力に取り入らず、一般庶民に布教をされた日蓮聖人のお会式が11月23日行われました。

戒名とは

日蓮宗では法号といいます。浄土真宗では法名、その他の宗派では戒名です。戒名が一般的ですので、戒名でお話し致します。

戒名とは字の如く、「戒を守ることを誓った(受戒した)者に与えられる名前」です。戒を守ることを誓った(受戒した)というのは、得度(佛様の弟子になる)することで授かるものです。

授戒師として歴史的に有名な僧侶が鑑真和上がんじん しどそうです。奈良時代、出家すれば税金が免除されていました。その為に私度僧しどそうと言って勝手に僧侶(出家)を名乗る者が増えました。佛教・社会が乱れるのを食い止めようと聖武天皇は授戒の制度を整えようと中国の高僧・鑑真和上しよべいを招聘されたのです。

「戒名は誰でも付けられる。」とインターネットで書かれています。しかし、佛の道に進まないのにつけるものではありません。その為には授戒師が必要なのです。

妙勝寺では通夜のお経の後、ご遺族と一緒に作法の意味を説明し、お釈迦様・日蓮聖人・妙勝寺のお弟子として旅立ってもらう『お剃刀の儀式』を行います。そして、葬儀の中で戒名を授けます。故人の戒名についてはご遺族に故人の「思い出記録」を書いてもらい、人となりを下にご遺族と相談して、故人に相応しい戒名を授与しています。

生前戒名というしきたりが古くからあります。僧侶のように出家修行はしないけれど(在家修行)、自分を見つめ佛(素晴らしい人格)への道を歩みたい…という願いから、『お剃刀の儀式』(剃髪を儀式的に行う)をし、戒を守り生活する為に授けられるものです。妙勝寺でも多くの方に生前戒名を授与致しました。授けるにあたってご本人の希望を聞き納得のいく戒名を授与しているのです。

新興宗教などで、授戒できる立場でないにも係わらず、授与されることがあります。奈良時代の私度僧と同じです。単なる号でしかありません。画家が自分の号を決めるのと同じです。残念ながら認められないものです。

キリスト教では洗礼名(クリスチャンネーム)があります。洗礼とは正式な信者になる儀式です。佛教と同じしきたりで戒名にあたるものです。

年をとるということは未来を見なくなることであり、自分の世界のみを見るようになる事である。

いつになっても好きなことを追い求め、旅に出かけたり、広い世界に接することで年をとらずに済むように思う…。

じょう 情

情のつく熟語には人情・友情・苦情・表情・愛情をはじめ沢山あります。情とは感じ・気持ち・思いやりといった心の動きとおもむき・あじわいといったありさま(風情)の意味もあります。

月参りの後、「お隣さんは今も薪でお風呂を焚かれている。」という話になりました。ここに移り住んで「懐かしい匂いやな〜と昔を思い出しました。」



「最近、キャンプが流行になって、焚き火をして楽しんだり、テントに泊まって自然を楽しむ若者が増えているようですね・・。火を焚く機会が無くなりましたから、わざわざ自然の中で焚き火をしているんですね。」

火の燃える風情を楽しむ心は素敵なことです。日常生活はボタン一つで生活できるようになりました。ご飯もお風呂も洗濯もスイッチポンでOK。

何事も快適になって便利にはなっていますが、知らず知らずに情が薄れているように思います。つまり薄情になっているように思います。また、情が通じないようになっていないのでしょうか。

情を大切にされたおばあちゃんが亡くなりました。近所の方が沢山お悔やみに来られご縁を大切にされていたことがわかりました。困っておられるお家に食事を差し入れたり、ご近所の友達を家に呼んでコーヒー談議を大切にされていきました。小生もお参りに行くと必ず美味しいコーヒーを振る舞って頂き、情け深いお話を聞きました。物事をはっきり言うおばあちゃんでしたが、強がっているようにも思え、何か寂しさの裏返しのようにうかがい知ることが出来ました。

思いやりの心は寂しさを感じなければ出てこないことなのでしょう。

若者が焚き火を楽しみ始めているのは、現代社会の孤独感・寂しさが若者の心に火を付け、暖かさと共に情を感じているのではないのでしょうか。

コロナで縁が希薄になって、人との付き合いのしんどさが少なくなり、気楽になってはいる反面、自分の中の大切な部分を見忘れていくようです。

1999年発行の法の光6号で森岡正博氏の「無痛文明論」についてお知らせしました。「快適な生活で人間は苦痛を感じなくなっている。」という内容でした。この延長線上に、情も薄れているということを経験する必要があるようです。これらは自覚症状の無い難しいことなのです。

「ブーメランが刺さった」 大阪市長

衆議院選挙が10月31日に行われ、当選した議員に選挙終了後の4時間で文書通信交通滞在費(文通費)100万円が支給されたことを批判した大阪市長が、自らも国会議員を辞める時に手にしていた6年前の事実を認め謝罪した折の言葉です。

過去にしたことを忘れています。些細なことでも人は覚えておられます。陰で「今ああ言っているけど、昔はな～」と言うのです。

失敗や情けないことをしているのが普通です。その痛みを胸に今度はしないようにしよう…。と戒め人間性を高めているのです。しかし、その事を忘れている人もいます。

年をとると一言一言吟味して話す必要があります。

法の光256号で「私即決しないようにしています。」というタイトルで、ご婦人の心構えを書きました。「思ったまま話したり行動すると、人様にいやな思いをさせたり、失敗したり誤解を生みますから…。森喜朗オリンピックの会長さんも軽々しく口にされたことで周りをいやな気持ちにさせたでしょ。年取ると言葉を選ばないとね。つい思ったことを口にするようになるの…。」

自分は正しいと思って話したことで、受け取る側は色々な思いで受け止めているのです。

言葉選ばず話したことで、自分の価値を下げているかもしれません。ブーメランは目に見えないのです。

除夜の鐘 と 新年祝祷会

12月31日(金) 23:45より

本堂では新年を祝し、穏やかな年になる事を願い祝祷会のお経をあげます。(右写真)

平行して鐘撞き堂で除夜の鐘を撞いてもらいます。

例年、多くの方が鐘を撞いて、笑顔でお正月をお迎えになります。



撞いて頂いた方に恒例の小僧君ストラップお守りをプレゼント致します。

ご家族で鐘を撞きにきて下さい。
車の方は境内に止めて下さい。

